



# 大樋焼

## 歴史と特色

寛文6年(1666年)に加賀藩5代藩主前田綱紀が京都より千仙叟宗室を招いた際、同行した土師[はじ]長左衛門が、金沢の大樋村に楽焼の窯を開いたのが始まりで以後、前田家の御用窯として栄えた。明治維新と第二次世界大戦で大きな影響を受け衰退していたが、生活の安定や茶道の普及で復興した。

初代長左衛門が楽茶碗の黒と赤を禁じられたため工夫して鉛色を創案したと言われ、雪国にふさわしい暖かい味がある。

土作りから本焼きまで手作りの一貫作業であり、素朴で暖かい味があり、茶陶を中心に生産されている。

## 歴史與特色

1666年加賀藩第5代藩主從京都聘請千仙叟宗室前來，與其同行的陶工長左衛門開始建窯，大樋焼因此興起。因當時禁止使用黑色和紅色樂茶碗，第一代長左衛門從而創造出米黃色茶碗，其色調溫暖並帶著樸素的特徵。

### 情報 資訊

主な生産地(主要産地)	金沢市(金澤市)
主な製品名(主要産品名)	抹茶碗、水指、菓子鉢、酒器(抹茶碗、水壺、糕點鉢、酒器)
主な生産者(主要生産者)	十代大樋長左衛門(十代大樋長左衛門) 〒920-0911 金沢市橋場町2-17(金澤市橋場町2-17) TEL (076)221-2397 大樋勘兵衛(大樋勘兵衛) 〒920-0918 金沢市尾山町2-8(金澤市尾山町2-8) TEL (076)231-0306



## 歴史と特色

加賀藩の奨励する鮎釣りにおいて、当初釣人が竿をつくっていたが、元禄の頃より竿師が現れ継竿を作るようになった。明治時代にはいと庶民にも魚釣りが解放され、釣竿製作も盛んになり、鮎の高級竿だけでなく、大衆向きの鯛竿の生産も順調に伸びた。第2次大戦後、グラスファイバー製釣竿の普及や海釣りへの移行で大打撃をうけたが、本物を求める釣人の強い支持を得て、需要は安定している。

釣竿は全天候に対して耐久性があり、軽く扱い易さが望まれるため、2年生の竹を高熱加工して強靱さをもたせ、さらに漆塗で補強と装飾性を加味し、長期使用に耐えられる堅牢さを持った美術工芸品として定評がある。

## 歴史與特色

在加賀，當初因武士們喜歡釣鯰魚而製出了高級魚竿。後來，大眾化的低價鯽魚竿也逐漸普及。這種質輕的魚竿是將生長了兩年的竹子通過高溫加工使其更加強韌，並用漆塗再次加強韌性和裝飾性，第二次世界大戰後，雖然玻璃纖維製的魚竿廣泛被使用，但加賀竿依然具有相當的人氣。

### 情報 資訊

主な生産地(主要産地)	金沢市(金澤市)
主な製品名(主要産品名)	友釣竿、へら鯛釣竿(鯰魚釣竿、日鯽釣竿)
主な生産者(主要生産者)	日細八郎兵衛商店(日細八郎兵衛商店) 〒920-0854 金沢市安江町11-35(金澤市安江町11-35) TEL (076)231-6371

# 加賀竿